療養場所の違いに応じた認知症者のエンドオブライフケア充実に向けての調査研究
－COVID-19流行の影響も踏まえて－

研究分担者　平川　仁尚　名古屋大学大学院医学系研究科　准教授

研究要旨
在宅、老人ホーム、特養、老健、療養型（精神科含む）、一般病院において、認知症の緩和ケアおよび認知症の人への自己決定支援がどのように行われているのかを明らかにするために文献レビューと専門職へのインタビュー調査を行った。インタビューは現在も継続中であるが、次年度以降の量的調査に向けた基礎資料（図２点）を作成できた。

A. 研究目的

在宅、老人ホーム、特養、老健、療養型（精神科含む）、一般病院において、認知症の緩和ケアおよび認知症の人への自己決定支援（アドバンス・ケア・プランニング、ACP）がどのように行われているのか、できていないのか、行う上で何に困っているのかを明らかにし、次年度以降のアンケート調査票作成の基礎資料とすることである。

B．研究方法

緩和ケア技術、自己決定（ACP）の2つの大テーマで質的調査を行った。

1）緩和ケア技術

痛みの捉え方は、職種やケアの場所によって違うという仮説の下、在宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、老人保健施設、療養型病床群（精神科含む）、病院等に勤務する医師・看護師・介護職員・ケアマネジャー合計約40名を対象とした。できるだけ、認知症ケアの専門家を対象者に含めた（老年看護や認知症看護の専門家、認知症介護の専門家）。

2）自己決定（ACP）

自己決定（ACP）支援の在り方は、職種やケアの場所によって違うという仮説の下、在宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、老人保健施設、療養型病床群（精神科含む）、病院等に勤務する医師・保健師・看護師・介護職員・ケアマネジャー・ソーシャルワーカー・家族の合計約40名を対象とした。できるだけ、認知症ケアの専門家を対象者に含めた（老年看護や認知症看護の専門家、認知症介護の専門家）。

データ収集

上記1）と2）について、関連書籍を含めた質的文献レビューを行った。つまり、書かれている内容全体を質的データし、質的分析を行った。その結果を図解化し、インタビューガイドとして用い、海外の対象者一人ひとりに対してオンラインでin-depthインタビューを実施している（現在も継続中）。

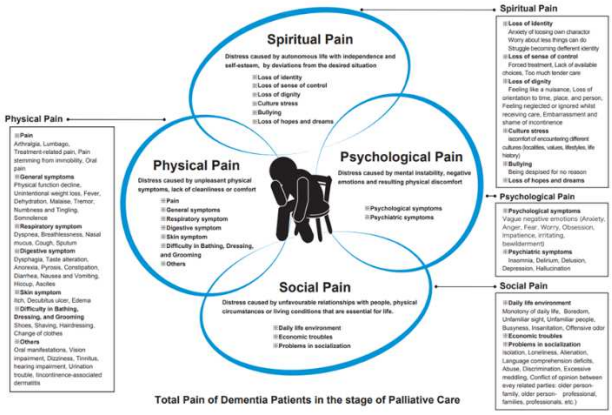
1）については、①苦痛評価（トータルペインの評価、家族の苦痛）、ケアの内容（医療的処置、症状コントロール、チームワーク、家族支援、コミュニケーション）について質問した。2）については、認知症の人の意思決定支援（本人に対する支援、家族に対する支援、本人と家族の関係性を調整する支援、多職種連携に関する支援）について、「工夫していること」「できたらやりたいこと」「困っていること」について質問した。1）と2）の両方で、COVID-19による影響についても尋ねた。

C．研究結果

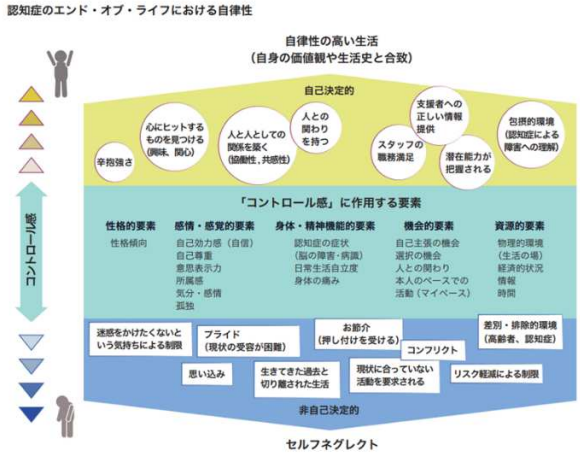
上記1）と2）について、それぞれ図解化したも

のを示す。1）については、自己の喪失（自分が自分でなくなるという不安など）、コントロール感の喪失（望まない治療・ケアを強いられるなど）、選択する機会の喪失（「できること」も介助されるなど）など認知症の比較的特有のスピリチュアルペインが抽出された。2）について、「スタッフの職務満足」、「（他者からの）お節介」、「（本人の）思い込み」など興味深いテーマが抽出された。

1）重度認知症高齢者のトータルペイン



2）認知症の人の意思決定支援に影響を与える要因



D．考察

文献レビューにより暫定的に作成された上記1）2）の図について、研究班内（エキスパートパネル）で議論を重ね、今回の結果を得た。現在進めているインタビューの分析を行い、その結果をそれらの図の改定に繋げたいと考えている。また、図の一つひとつの項目をアンケート調査項目の選定に活かし、次年度の量的調査票の作成を行いたい。1）重度認知症高齢者のトータルペインについては、現在Journal of Rural Medicineに投稿中である。

E．結論

在宅、老人ホーム、特養、老健、療養型（精神科含む）、一般病院において、認知症の緩和ケアおよび認知症の人への自己決定支援（ACPを含めて）がどのように行われているのか、できていないのか、行う上で何に困っているのかを明らかにするために、質的調査を行った。暫定的ながら、次年度以降のアンケート調査票作成の基礎資料となる図2点を作成した。

F．研究発表

1. 論文発表

1）Mamun, M., Hirakawa, Y., Saif-Ur-Rahman, K. et al. Everyday wishes of older people living with dementia in care planning: a qualitative study. BMC Health ServRes 22, 184 (2022) https://doi.org/10.1186/s12913-022-07606-1

2. 学会発表

該当なし

G．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　　該当なし
2. 実用新案登録　　該当なし
3. その他　　該当なし